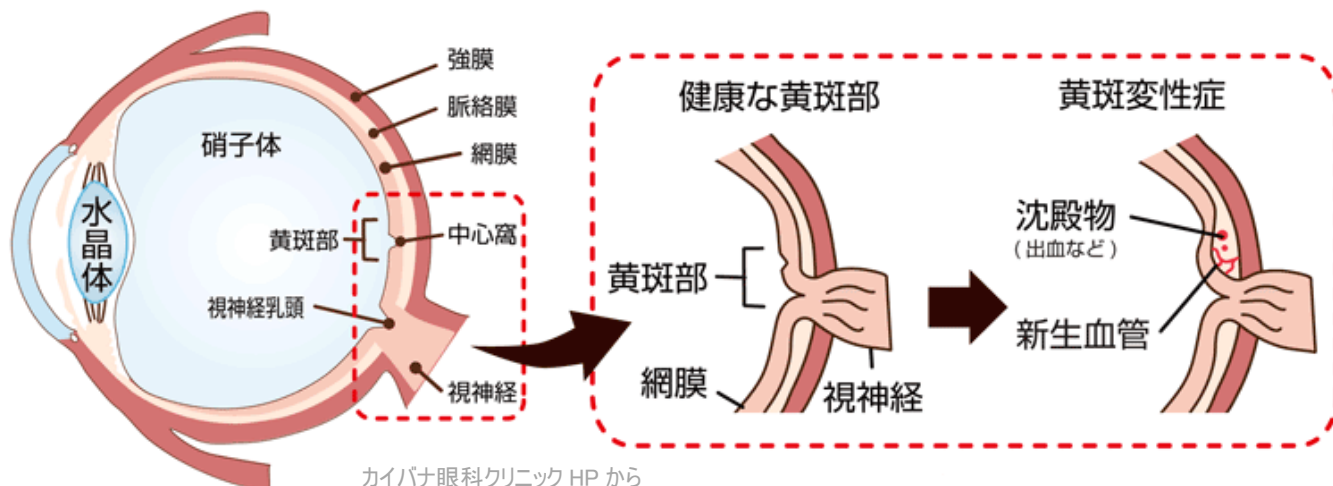


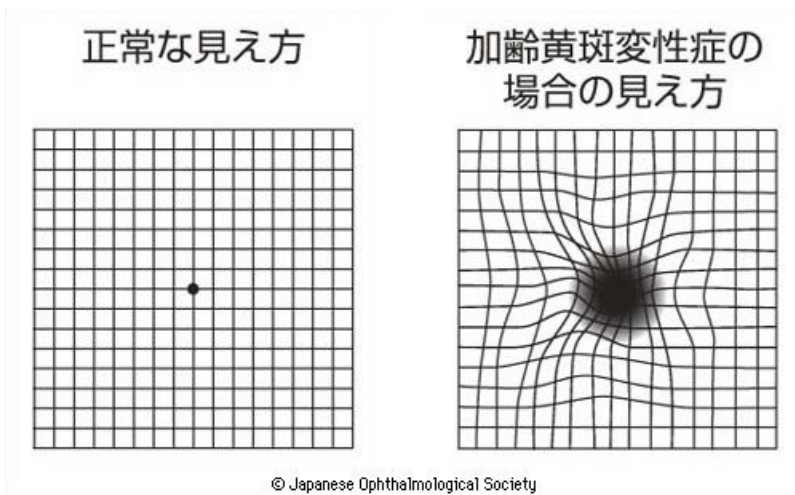
週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると血管が傷み、いろいろな病気につながる事を紹介してきましたね。心臓や脳、それに手足に起こる病気を知ってもらいましたが、じつは喫煙は眼の病気にも関係している事を知っているでしょうか。



眼の構造を示した上図を見てください。光が集まる網膜の中心にある黄斑おうはん (点線内) という部分に異常があると右にあるように、ものがゆがんだり、ぼやけて見える症状がでます。

この病気は年をとれば誰にでも起こる可能性があり、50歳以上で発症することが多いので「加齢黄斑変性症おうはんへんせい」と呼ばれているのですが、とくに喫煙者に多く発症すると言われています。



原因は黄斑にある毛細血管が詰まることがきっかけで発生する新生血管だそうです。この新生血管は正常な血管ではないため破れて出血をおこしやすく黄斑に異常がおこるわけです。やはり喫煙が血管にダメージを与える事と関係がありそうです。だから加齢黄斑変性症の予防には禁煙が非常に重要です。もっとも、はじめから全くタバコを吸わないに越したことはありません。

加齢黄斑変性症の患者は全国に約69万人(平成23年度の推計)もいるそうです。そして、喫煙が眼の病気の原因となる事も知っておいて下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久